

will do  
be going to do ▶▶ p.12  
be doing  
be to do

Will you...?  
Can you...? ▶▶ p.14  
Would you...?  
Could you...?

should do ▶▶ p.16  
must do

have to do ▶▶ p.17  
need to do

## Which?

どれを使うと意図が伝わる?

can do ▶▶ p.18  
be able to do

これだけは  
押さえておこう!

can do ▶▶ p.19  
may do

would do ▶▶ p.20  
used to do

wish (that) ▶▶ p.21  
hope (that)

### 特集

willとbe going to、どう違う?

会話からニュアンスを学ぼう

# 助動詞の使い分け

英語を話すときに「こちらの気持ちがうまく伝わっているか不安」、  
「微妙な感情を表現できていない気がしない」などといった悩みを抱えている人の多くは、  
「助動詞」をうまく使いこなせていないかもしれません。  
そこで、今回の特集では、「会話上手」になるための、  
ネイティブ流の「助動詞の使い分け術」をクイズ形式の会話例でお届けします。  
助動詞以外の、使い分けに迷う表現もいくつか取り上げます。  
使える口語表現もたくさん登場。うまく活用して、表現力をアップさせましょう!

執筆: EE編集部



未来を表す表現 未来を表す表現はwillだけじゃない! 違いをおさらいしましょう。

# will do or be going to do / be doing or be to do

**Q** 以下の会話の空所に入れるのにより適切なのは、I'llとI'm going toのどちら?

※音声では( )内も読み上げられます。

**A:** The printer's not responding at all.

**B:** Don't worry. ( ) get it back up and running.

**A:** We need it right now for the meeting.

**B:** It's OK. Just give me five minutes.

**A:** プリンターがうんとともすんとも言わないよ。

**B:** ご心配なく。私が元通りに動くようにするから。

**A:** 会議のために、いますぐ要るんだけど。

**B:** 大丈夫。5分あれば終わるよ。

語句 get A B: AをBの状態にする / (be) up and running: (初めて・再び) 作動している

## 正解 I'll

まずは、未来のことについて述べる際に使う代表的表現である、will doとbe going to doの違いを確認しましょう。どちらも「～するつもりだ」という意味を表せますが、will doは「**その場で決めた**」、be going to doは「**前もって決めていた**」という場合に使うのが基本です。「故障した」という話を「**今**」聞いて「直すよ」と申し出ているのですから、上の会話ではwill doを使うのが自然です。

これに対して、下の会話では、「修理が終わらない」ということがわかっていたから、歩いて出社することを前もって決めていた」という状況。このような場合は、**be going to do**を使うのが適切です。

**A:** Why are you wearing sneakers instead of your usual dress shoes?

**B:** I'm going to walk to the office today, because my car's still in the shop.

**A:** That explains it.

**B:** I've been looking forward to the change, actually—and the exercise.

**A:** どうして今日は、いつもの革靴じゃなくて、スニーカーを履いてるの?

**B:** 今日は会社まで歩いていくんだ。車がまだ修理工場から戻ってきていないから。

**A:** なるほどね。

**B:** 実は、この気分転換を楽しみにしてたんだ。運動できるのもね。

語句 dress shoes: フォーマルな靴 / be in the shop: 修理工場に預けている、修理中である



## Digging deeper

be going to doは「**未来に関する客観的状況に基づく判断**」を表す場合にも用いられます。例えば、「道路がすごく混んでいる。遅刻してしまうだろう」は、The roads are really congested. We're going to be late.と表現できます。「渋滞」という客観的状況に基づく判断なので、be going to doを使うのが自然です。

ほかにも、例えば「あの棚は傾いているから、すぐに直さないと落ちる」は、Judging from the way that shelf is leaning, I'd say it's going to fall if it's not fixed soon.と表現できます(「棚が傾いている」という「客観的状況」)。この発言を受けて、「ドライバーを持ってくるよ」と言う場合はI'll grab a screwdriver.となります。「その場で持ってくることを決めたから」ですね。

なお、上の棚の英文は、特定の棚の話ですが、これが一般論になると、Wooden shelves will sag if heavy items are placed on them. (木製の棚は重いものを載せるとたわむ) のようにwillが使われます。このよう